

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】令和2年3月1日現在

圏域人口：64,714人

高齢者人口：15,940人

高齢化率：24.63%

【圏域の特徴】

- ・千里ニュータウンとして開発された地区と以前から存在する地区とが混在している。ニュータウンは、50年以上の年齢を重ね、建て替えが進行、高層で重装備なマンションが建築されてきている。移住された住民も高齢期を迎えている。
- ・歩車分離の構想で町が造られ、坂道や階段の多いことも特徴となっている。また、医療機関とスーパーなどがセットになった近隣センターは、各校区によってすたれたり、店舗が交替して存続していたりと様々な形態を呈している。

### センターの取り組み方針や特徴

【総合相談支援業務】

- ・受付実件数：3,209件/年(前年2,855) 受付実人数：1,146人/年(前年1,169)
- ・関係機関等に出向き、関係性をつくり、また包括簡易版のパンフレット設置を依頼し、相談しやすい環境づくりに努めた。
- ・緊急事例や困難事例等については、複数名での判断や対応を行っている。
- ・担当者不在でも対応できるように記録の整備や申し送り、朝ミーティングでの情報共有を行っている。

【権利擁護業務】

- ・専門職向け、市民向けへの認知症サポーター養成講座を実施した。
- ・消費者被害について、フェイスブック発信やくらしかんからの情報掲示を行っている。また、住民や関係機関から情報提供があった場合は、近隣への周知に協力いただけるよう依頼している。
- ・高齢者虐待事案については解消に向け、関係機関と連携し速やかな対応を行っている。また本センター、分室の協力ができる体制をとっている。防止の取り組みとして、関係機関からの相談対応時にも人権について意識できるように職員面談時に伝えている。今年度は、感染症の関係で、虐待防止に向けた講演会や研修が、関係機関、包括職員のみとなっているが、毎年、市民向けにも人

権・虐待防止研修を行っている。

**【包括的・継続的ケアマネジメント支援業務】**

・「ケアマネとの勉強会」や「地域ケア個別会議」において、多職種への参加を促し、ともに学ぶことで資質向上や情報交換、交流やネットワーク構築の機会としている。

・介護支援専門員が困難に感じているケースについて、相談や同行訪問を行った。

・校区ごとの地域ケア会議の参加を多職種や地域資源に働きかけた。連携、協力、協働の結果として、フィットネスクラブや薬局の参加から敬老の集いへの協力が得られた。また、包括パンフレットを置かせていただける場所も増えた。

**【介護予防ケアマネジメント業務】**

・本人の意向に沿い、必要、適切なアセスメントを行い、自立に向けた具体的な達成目標やプランを提案、モニタリングから、必要時にはプランの変更と一連の介護予防ケアマネジメントを実践している。

## 総評

**【特徴的な取り組み内容】**

- ① 地域の社会資源との関係づくりにより、顔と顔が見える関係づくりを推進するとともに、フィードバック、アフターフォローを行い、関係性の継続に努めています。こうした取り組みから地域では広がりのある繋がりや関係性が構築されています。
- ② 利用者自身が持つ力、能力、自己肯定を意識した支援計画の策定が行われており、利用者自ら目標に対する評価が可能な目標設定に努めています。目標設定には利用者自身も積極的に関与しています。
- ③ 自立支援型の地域ケア個別会議において、先進的な取り組みを行っています。

**【さらなる質の向上の余地がある点】**

- ① 高齢化率が低い地域へのアプローチをについて、介護予防の啓発を行うなど今後の高齢化をふまえた取り組みが望まれます。
- ② 団地の建て替えや、入居者が入れ替わることによるコミュニティ崩壊が進行しており、オートロック増加による接触困難、地域と繋がりのない高齢者世帯の増加といった課題に対する取り組みが望まれます。